

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益社団法人 上方落語協会
公演団体名	公益社団法人 上方落語協会

内容
上方落語と寄席のお囃子（出囃子・効果音）の解説を行う。 ・希望者に高座へ上がってもらい、小噺や扇子や手拭いを使ったしぐさを体験してもらう。 ・高座で太鼓やドラなどの和楽器に触れてもらう。 ※舞台上へ上がる事が難しい場合はその場で仕草の体験をしてもらう。 （うどんをすする、おぼけ、やきいもを食べる）

タイムスケジュール（標準）
上方落語の落語解説（20分） 寄席のお囃子紹介（20分） 舞台上での体験（20分） 落語、色物実演（各10～15分）

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
主指導者1名、補助者5名 スタッフ4～5名

学校における事前指導
友達同士でおしゃべりをしない 笑うところはしっかり笑う 場合によっては体験参加者を事前に調整していただき、体験で舞台上へ上がる場合、 児童の消毒液へのアレルギー有無の確認と舞台袖での消毒を徹底。マスク着用と手指消毒の協力をお願いします。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益社団法人 上方落語協会
公演団体名	公益社団法人 上方落語協会

演目
演目「寿限無」・「転失気」・「動物園」・「時うどん」・「七度狐」など 児童・生徒が情景を容易に想像し、楽しめる演目を想定。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者 5～6名（色物含む）、三味線 1名 スタッフ 4～5名※本公演に含む場合は本公演進行に準じる

タイムスケジュール（標準）					
到着	仕込みとWS	本公演	内休憩		退出
9時	7時～12時	13時～14時半	10分	14時15分～16時	16時30分
ワークショップは本公演と同日開催。 ワークショップを同会場で行う場合は、ワークショップを午前中に開催。 そのため、到着と仕込みはその2時間半～3時間前に変更。					

実施校への協力依頼人員
舞台搬入までの対応 1～2名 （ステージ上、舞台袖は搬入までに何も無いようにしておいてください） 当日司会進行 1～2名

演目解説

「寿限無」子供が主人公のため、子供にもなじみやすい。
「転失気」知ったかぶりで失敗する内容がわかりやすい。
「動物園」設定が奇抜で、動物の仕草をふんだんに盛り込み、見て楽しい。
「時うどん」商売人の様子をイメージしやすく、客とのやり取りが滑稽である。
「七度狐」旅の道中、神の使いである狐に悪さをしたため、バチをあてられるストーリーが分かり易い。上方落語特有のハメモノ（効果音）も入り陽気な演目。

※本公演では鑑賞者の関心や理解度によって、上記以外の演目を選択する場合があります

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

○小噺、しぐさ、鳴り物の体験

事前に暗記した小噺を舞台上で発表してもらおう。落語家の補助のもと扇子・手拭いを使ったしぐさを舞台上で実際に演じる。幽霊の登場シーンを幽霊、太鼓、ドラをそれぞれ生徒・児童が担当し、演じる。

○クイズにチャレンジ

落語の歴史や鳴物の名称、手ぬぐいを使って何を表しているかなどをクイズ形式にして生徒たちにあててもらおう。

※上記の内容を中心に、開催校との協議により決定します。

児童生徒とのふれあい

- ・実施校生徒が舞台上で実演する事により、落語を身近に感じてもらう。
- ・演者が解説した「うどんをすする」、「やきいもを食べる」などの仕草を全員で同じ体験をする事で会場の一体感をつくる。
- ・クイズにすることで双方向のやり取りが生まれ、演者と生徒にも一体感が生まれる。
児童・生徒には舞台上上がる前に、再度手指の消毒を徹底。演者側も必要に応じてマスクあるいはマウスガードの着用をする。